

日本記者クラブ会報

公益社団法人 日本記者クラブ 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル TEL.03-3503-2722 <http://www.jnpc.or.jp/>



東京—金沢 最速2時間28分

北陸新幹線が開業。4線全てに新型車両が停車し、大勢の人で埋まった金沢駅ホーム

=2015年3月14日

撮影：山本 健吾(北國新聞社写真部)

今月のことば

「日本社会は、カタギ(堅気)、インテリ、ヤンキーの3極構造。このうち層の厚いカタギのおかげで社会が維持されている」
竹内洋・京大名誉教授(3・5) 3ページ

「日本一になり浜松市民が喜んでくれた。街でおばちゃんから『ジュリーの次にあなたが好き』と声をかけられて手を握られた」
清宮克幸・ヤマハ発動機ラグビー部監督(3・17) 5ページ

今年には琉球列島の今後を決める「沖繩の年」。沖繩取材団は6月9日夜、那覇に入り、10、11、12日と3日間を取材にあてる。翁長雄志知事、稲嶺進名護市長との会見、米軍普天間飛行場内部、辺野古移設の現場、基地に依存しない地域経済の展望などを取材する計画だ。沖繩タイムスと琉球新報の協力を得て、取材先と折衝している。(中井良則)

全国から若手記者が日本記者クラブに集まる恒例の記者研修。今年は6月8、9日に行い、続けて沖繩へ取材団を派遣する。日程の概要が固まってきた。募集案内は4月下旬、加盟各社の編集・報道局長や論説委員長あてに送り、参加を呼び掛ける。

記者研修では「対談 戦後70年を語る」と題し、村山富市元首相と河野洋平元自民党総裁をゲストに迎える。村山談話と河野談話の当事者である2人が戦後70年と歴史認識について語り、質問に答える。石破茂地方創生相も会見する予定。毎年、議論が沸騰する現場記者の討論会は各紙・局が展開する戦後70年の連載企画がテーマだ。

6月記者研修で村山・河野対談
沖繩に現地取材団も派遣

クラブゲスト
高橋 シズエさん、宇都宮健児・弁護士／竹内洋・京大名
誉教授／クリムキン・ウクライナ外相 3
山田彰・駐メキシコ大使／大庭三枝・東
京理科大学教授／古賀伸明・連合会長4
ワルストロム・国連事務総長特別代表(防
災担当)／ピンソン・コロンビア国防相／清
宮克幸・ヤマハ発動機ラグビー部監督 5
中満 泉・国連開発計画危機対応局長／
リュウ・国境なき医師団インターナシヨナル
会長／鈴木達治郎・バグウォッシュ会
議世界大会組織委員長、小沼通二・神奈
川歯科大理事、大沼仁・東北大名誉教授6
中尾武彦・アジア開発銀行総裁／板橋
拓己・成蹊大准教授 7

賛助会員の会 7
記者ゼミ ネット時代のマスメ
ディア編 8・9
池村 聡・弁護士／渡邊英徳・首都大学
東京准教授／宍戸常寿・東大大学院教授
第2期記者ゼミを終えて
津山昭英特別企画委員

ワーキングプレス
川崎中1 殺害事件 10
神奈川新聞社 北川文
沖繩・与那国 住民投票 11
八重山毎日新聞社 高良新輝
黒田博樹 カーブ復帰 12
中国新聞社 木村雅俊

被災地通信 13
4年目の春 復興の階段はそれぞれ
石巻日日新聞社 平井美智子

書いた話書かなかった話 14・15
「面白いものを見せてあげよう」と
フジモリ大統領は言った 江口義孝
リレーエッセー 16
「神戸っ子」の土井たか子さん
神戸新聞社 小西博美

マイBOOKマイPR 17
試写会 18
皆殺しのバラッド メキシコ麻薬
戦争の光と闇 友田錫
寄贈書 18
写真回廊新執筆陣紹介 19
第2期記者ゼミ講師一覧 19
会議報告／予算書／会員異動表
20・21

会見、取材団 プレス事業を充実 3億9141万円 減収予算を承認

日本記者クラブの2015年度の
予算と事業計画が3月26日の臨時社
員総会で承認された。予算の収入は
前年度比624万円、1.57%減(千
円以下切り捨て)の3億9141万
円を見込んだが、支出は人件費など
の削減に努め、当期一般正味財産の
増減はなく収支同額の予算となっ
た。単年度の収支計算書では、減価
償却分(400万円)の黒字。(21頁)
に正味財産増減予算書)

年度に80歳を迎えるD会員は46人い
るため、この割引分だけで257万
円の減収となる。D会員869人の
うち、80歳以上の先輩は307人で
3分の1を超える。貸室収入、飲食
売上割戻しなど事業収入も前年度実
績をもとに減少を見込んだ。
経常費用(支出)の最大の支出項
目は、プレスセンター9階全部と10
階ホールを賃借する借室維持費であ
り、43%を占める。(株)日本プレスセ
ンターの理解を得て、9階借室料が
引き下げ改定された。事務局職員は
1名を新規採用したが、退職者や嘱
託再雇用者がいるため人件費全体で
前年度比934万円の削減となる。
会見・会報などの事業費は大型の
海外取材団派遣なども見込み増額し

た。クラブの基本であるプレス会見
はより幅広くゲストを招き、内容を
拡充したい。

●会見写真をデジタル化

ネガフィルムやプリントで保存し
ていた過去の記者会見などの写真
(約3700件)を電子化する新事業
を行う。経常外収益の経営安定化資
金積立を取り崩し、700万円の支

出を計上した。フィルムが劣化する
前に保存し、重要な会見写真はウェ
ブサイトで公開する。14年度に電子
化した会報や会見音声とともにデジ
タル・アーカイブを広げる。
経常費用は前年度比1424万円
減少し、3億9841万円。写真デ
ジタル化事業の経常外収益取り崩し
分700万円を勘案すると、当期一
般正味財産に変化はない。

●法人会員・賛助会員の入金金なし

理事会(3月5日)は会員増加に
取り組むため、法人会員と法人賛助
会員の入金金を免除する特別措置を
15年度も続けることを申し合わせ
た。報道機関や企業、団体に声をか
けていただきたい。
(専務理事 中井良則)

「会見場」に変えました

9階の日比谷公園に面した大部屋
は「宴会場」と呼んできたが、4月か
ら「会見場」に変えた。「宴会場(バン
ケットルーム)で記者会見を開きま
す」と説明すると、ゲストに「え
っ?」と驚かれる時もあった。もとも
との使用目的は記者会見。会見のな
い時という前提で、会員に貸し出し、
会合に使ってもらっている。名称は
本来の「会見場」とするが、会員の利
用方法は変わらない。

たばこは喫煙室でどうぞ

9階会見場と食堂の手前のスぺー
スに灰皿を置き、たばこが吸えるよう
にしていたが、4月から灰皿を撤去し
た。また10階ホール前にあった灰皿も
撤去した。たばこの煙は困るといっ
や、ホール前は無人の場合もあり火の
始末が心配だという声に配慮した。愛
煙家の会員は9階ラウンジ奥の喫煙室
で分煙をお願いします。
以上2件は3月12日の施設運営委員
会で承認された。

サリン事件20年

高橋 シズエ さん
 宇都宮 健児 弁護士
 中村 裕二 弁護士
 3・4(水)研究会「地下鉄サリン事件20年」③/司会・瀬口晴義委員/出席・72人/動画



オウム法廷の取材で一番印象に残るのは1996年3月の林郁夫被告(無期懲役が確定、服役中)の第2回公判だ。地下鉄サリン事件の起訴事実を認めた林被告が何度も絶句しながら謝罪の言葉を述べると、傍聴席からおえつが漏れた。夫の一正さんが地下鉄霞ヶ関駅で殉職した高橋シズエさん(写真中央)だった。林被告は幼児のように大声で泣いた。高橋さんが麻原彰晃被告(死刑確定)やその弟子たちの刑事裁判の法廷に連日のように足を運ぶ姿をよくお見掛けした。肉体的にも精神的にも相当にきつかったはずだ。泣き寝入りをしていた犯罪被害者の権利を高めるために、高橋さんは議員立法による犯罪被害者基本法の制定に奔走、国会や永田町に精力的に通い、オウム事件の被害者を救済する特例法も勝ち取った。そんな高橋さんを支えたのが会見に同席した宇都宮健児弁護士(同右)と中村裕二弁護士(同左)だった。今も後遺症に悩まされているサリンの被害者は多い。遺族や被害者にとって事件は終わっていないということを再認識した会見だった。

企画委員 東京新聞社会部長 瀬口 晴義

戦後70年

竹内 洋 京都大学名誉教授
 「超大衆社会」の危うさ説く
 3・5(木)シリーズ企画「戦後70年 語る・問う」⑭/司会・会田弘毅企画委員長/出席・63人/動画



新聞社の入社試験に落ちた私が、記者の皆さんの前でお話などしてもいいのでしょうか。冒頭、そんな「枕」で聴き手の心をくすぐった後、日本の大衆社会は第2幕、すなわち「超大衆社会」に入った、との持論を丁寧展開した。これまで大衆社会については2つの危惧が指摘されてきた。1つはエリートが過度に大衆の干渉を受けること。もう1つは逆に、個に分断された大衆がエリートに操作されやすくなることだ。超大衆社会の危うさは「どちらとも違う」。実は存在しない「想像された大衆」を政治家も官僚も文化人も、おみこしとして都合よく担ぐ。一般の人々も世論調査や街頭インタビューでは、この「幻想」を進んで演じる。こうして顔のない「超大衆」が空気となり、メディアや言論空間を支配していく。そういう怖さなのだとみる。騒々しいポピュリズムや反知性主義が日本社会の病として急浮上しつつある。竹内氏の論は、問題の構造をレントゲンのように透視してみせる。処方箋の1つが、極論を嫌い、バランスを重んじる「堅気」層への注目だという。常に新しいもの、珍しい現象を追うメディアが軽んじがちな彼らこそ、本来の大衆＝庶民だからだ。

日本経済新聞編集委員兼論説委員 石鍋 仁美

パウロ・クリムキン ウクライナ外相
 ロシアとの関係復帰
 「予想される将来はない」
 3・3(火)記者会見/司会・杉田弘毅委員/通訳・長井鞠子/出席・71人/動画



2月15日から停戦が発効した事になっていくが、砲声はやんでいない。「これはウクライナの問題ではない。国際社会の価値観、ルール、原則が試されている」と強調し、ウクライナの領土保全、主権を擁護するように訴えた。ロシア軍の支援を受けた親ロシア派が、ウクライナ東部で支配力を強める。劣勢のウクライナのために欧米の国々が訓練や支援を始めた。「米国、英国、オーストラリアが軍事専門家や顧問団を派遣しており、歓迎している」と述べた。この地政学上の要衝で、ロシアと米国およびその同盟国が代理戦争を始めている構図が浮かんでくる。ウクライナは兵器も足りない。米国に要請しているのは「攻撃を仕掛けるのではなく、『反撃に必要な重要兵器』である」と説明し、通信設備や無人機を挙げた。オバマ米大統領はこうした兵器を渡せば、戦闘がさらに激化し、米国製最新兵器がロシア側の手に落ちる事態も懸念して消極的だ。ロシアとの関係の復帰は「予想される将来はない」。クリミアがロシアに併合されたままであるならば、ロシアとの復縁に踏み切れないのは当然だ。安倍首相との会談では、首相が早期ウクライナ訪問の意向を示したという。

企画委員 共同通信編集委員室長 杉田 弘毅

山田 彰 やまだ あきら
駐メキシコ大使

特派員不在のメキシコ 熱い改革の現状を説明

3・3(火)記者会見/司会：中井良則専務理事/出席：21人
/動画

一人当たりGDPは1万ドルを超えた。自動車生産台数は世界7位。日本からの進出企業はこの5年間で2倍以上に増えた。人口は間もなく日本を追い抜く。さて、この国はどこでしょう？



答えはメキシコ。知っているようで知らないメキシコの現状を熱心に紹介した。スライド資料のタイトルは「改革が熱いメキシコ」。「国営企業が独占してきた石油・ガス事業に、外国の資本と技術の参入を認めるエネルギー改革が進んでいる」。活気あふれる経済とビジネスチャンスを駐日メキシコ大使のように説明した。

とはいえ、日本で報道されるニュースは麻薬組織の凶悪犯罪が多い。「全体では犯罪は減る傾向にあっても、たしかに治安の問題は懸念材料だ。ただ、対応可能なリスクと申し上げている」と、ことばを選びながら慎重に述べた。

「メキシコの人にも日本を知ってもらいたいし、同時に日本の人にもメキシコと中南米をもっと知ってほしい」。大使として心配なのは、日本の新聞・テレビの特派員がいなくなったことだろう。これほど大きく変化する親日国の現場を取材した熱いリポートを読みたいものだ。

日本記者クラブ専務理事 中井 良則

大庭 三枝 おほば さんえ
東京理科大学教授

厄介だが重要なASEANの 形成と意味合いを解く

3・6(金)著者と語る『重層的領域としてのアジア 対立と共存の構図』/司会：坂東賢治委員/出席：63人/動画

ASEAN(東南アジア諸国連合)を中心とする地域制度が重要性を増す中、アジアには「そもそもなぜこんなにたくさん人の制度が存在しているのか、重層的に構築されてきたことにどういう意味があるのか」着目したのが執筆の動機という。



背景に多国間外交の広がりがある。2国間に慣れた日本には、これがなかなかわかりにくい。「大国にとってASEANは面倒くさい。言うことを聞いてくれないので厄介です」と率直に語る。大国を突出させず、バランスを取りつつASEANとしてまとまる。結果は「この数十年、大国もASEANに乗りざるを得なかった」。

大国がゴリ押しできないASEANの自信は、ブラザ合意以降の経済発展が大きいため。だが問題はこれから。中国の台頭と米国の再均衡政策の中で、ASEANは中心性を維持できるかどうか。中国は地域制度を利用しようとしており、ASEANを尊重していくのではと見る。

ここは見解が分かれるところだけに、もう少し詳しく聞きたかったが、文字通り重層的で込み入る話を、気鋭の国際政治学者は目いっぱい立て板に水で整理した。

産経新聞出身 千野 境子

古賀 伸明 こが しのあき
連合会長

労働取り巻く過酷な環境に警鐘

3・9(月)記者会見/司会：水野裕司委員/出席：74人/動画



日本最大の労働組合ナショナルセンターのトップとして、674万人の組合員を率いる。会見は春季生活闘争(春闘)の集中回答を問近に控えていた時期

で、話題も春闘が中心になった。ささやかれる「春闘不要論」に対しては、「企業、産業だけでなく、日本社会を見つめ直すための1つの有効なメカニズムだ」ときっぱり。「物価上昇に所得が追いついていない。経営側も支払い能力論、総額管理など従来の発想を捨てて、マクロの視点で(賃上げの)決断を」と主張。

所得、資産の格差についても厳しい警鐘を鳴らす。日本の相対的貧困率や子供の貧困率の高さ、年収200万円以下のワーキングプアの存在などを挙げ、格差論争を「一時のブームに終わらせてはいけない」と言う。「一部の貧困は全体の繁栄にとって危機」だとも。解決のためには政策論議が必要と提起する。

年間100人を超える過労死問題への取り組みにも意欲的だ。若者を長時間、過重労働で使い捨てる「ブラック企業」問題については、労組による職場点検、あるいは経営者団体や行政に対する要請などを行う方針を示した。労組のないブラック企業に対しては、組織化も図ると言う。

東京新聞出身 川北 隆雄

マルガレータ・ワルストロム

国連事務総長特別代表 防災担当

教訓を生かし

「全地球」に向けた防災指針を

3・11(水)記者会見/司会：土生修一事務局長/通訳：森岡幹子/出席：38人/動画



「世界をいかにより安全な場所にできるか、重要な決定を下すことになる」。新しい国際的な防災指針を決める第3回国連防災世界会議を3日後に控え、会議の意義を強調した。1月にもクラブで会見しており、意気込みを示した。

東日本大震災から4年を迎え東京で行われた追悼式に出席後、会見に臨んだ。「日本にとって(会議は東日本大震災で)学んだ教訓、知見を世界各国と共有するチャンスになる」と述べた。

神戸市で第2回会議が開かれたのは2005年。「この10年は大災害が起き、中小規模の災害も多発した。(防災は)多大な進歩を遂げたが、災害の損失はあまりに大きい」と説明し、新指針については、「初めて復興の役割が強調され、全球的なターゲットを設けようと考えている」などと明らかにした。

一方で、15年は開発と気候変動に関する重要な国際会議が行われる。南北対立についての質問が多く、「貧困国とそうではない国に緊張が存在することは否定しない。(防災世界会議では)実現可能な中間値を見つけられると確信している」と双方の歩み寄りに期待を寄せた。

読売新聞国際部 松本 健太郎

ファン・カルロス・ピンソン コロンビア国防相

国のイメージ改善に強い意気込み

3・13(金)記者会見/司会：中井良則専務理事/通訳：横田佐知子/出席：27人/動画

「治安改善が進み、劇的に平和になった。今や地域有数の投資適国で、ラテンアメリカで最も成長が速い国だ」。初の2国間防衛相会談などのため来日したコロンビアのピンソン国防相はスピーチの冒頭で、まず投資呼び込みをアピールした。



2012年に始まった左翼ゲリラ「コロンビア革命軍(FARC)」との和平交渉は進展しており、かつて大都市の繁華街でも横行したテロは、すでに鎮

静化し、地方で散発的に起きるだけだ。首都ボゴタや、かつて麻薬組織が牛耳った第2の都市メデジンなどでは、シヨッピングモールの建設ラッシュが続いている。ピンソン氏は「和平実現は可能だ。FARCには、もう時間が残されていない」と強調、早期の和平合意に自信を示す。

和平交渉の進展や掃討作戦の強化によって、約半世紀にわたって続く内戦状態が終わりを迎えるようとしているコロンビア。地雷撤去や貧富格差の解消など課題は残る。だが、ピンソン氏は「テロ対策や国境を越えた犯罪組織に対応してきた経験を日本にも伝えることができる」と訴え、政府が一丸となって国の悪いイメージを少しでも良くしたいという意気込みを強く感じた会見だった。

共同通信外信部 遠藤 幹宣

清宮 克幸 ヤマハ発動機ラグビー部監督

独自性発揮して日本一

3・17(火)記者会見/司会：伊藤秀明理事長/出席：72人/動画

ラグビー界のエリートである。選手として早稲田大学、サントリーで日本一に輝き、監督では母校を大学日本一、サントリーをトップリーグの頂点に導いた。

それだけではない。2011年、経営再建中で活動規模を縮小したヤマハ発動機ジュビロの監督に就任し、トップリーグから降格の危機にあったチームを4シーズンかけて日本選手権制覇まで育て上げた。「雑草軍団」のポテンシャルを引き上げた結果の優勝に喜びが宿っている。



日本一の背景に「自分たちのスタイルにこだわる」姿勢がある。端的に言えば、ヤマハ独自のチーム作りであり、それはフランス流を取り入れたスクラムに集約される。大型化や最強国の流れを追うのではなく、大型選手ばかりではないのに強いフランスに、目指す方向を見いだした。選手、コーチを派遣して得た栄冠は、ジャンルは異なるが、独自性を求めて世界をリードした日本企業の指向と重なりそうだ。

ラグビーは今年ワールドカップ(W杯)があり、4年後は日本で開かれる。「19年には日本人の体格でも戦えることを証明しなければならない」と語り、今年の結果次第で強化方針が変われば「(代表監督に)名乗りを上げる」。強烈な自負心を隠そうともしない。

共同通信編集委員 小沢 剛

中溝 泉 なかみづ いずみ
 国連開発計画(UNDP)危機対応局長

日本人の性格は国際機関向き？

3・18(水)記者会見/司会：軽部謙介委員/出席：58人/動画



途上国の開発支援が任務のはずのUNDPに昨年、「危機対応局」が新設された。その初代局長に就任したのが中溝さん。失礼ながら、官僚機構にありがちな予算や人員を増やすための新設かと思っただけ、そうではなかった。

フィリピンでは、台風被害直後に「がれき処理プロジェクト」を立ち上げ、現地の人たちの雇用創出につなげたという。紛争や災害では、地方行政機関の素早い復旧がその後の復興に重要な役割を担っている。体験を踏まえた分、かなりやすい説明に、人道支援だけでなく開発支援でも初動が大事なのだと納得させられた。

国際機関で日本人は語学力や押しよせの弱さからハンディがあるという思い込みは正しくないという指摘も興味深かった。「日本人は自己主張が弱いから損というのはウソ。コミュニケーション能力は必要だが、自分の視点を押しつけない日本人の性格はむしろプラス」と言う。

女性にとって(男性にとっても)国際機関は「家庭かキャリアかの選択を迫られない、ワーク・ライフ・バランスの取れた職場」とも。今後一層の活躍で、世界を目指す日本の若者たちを勇気づけてほしい。

毎日新聞論説委員 大木 俊治

ジヨアンヌ・リユー

国境なき医師団インターナショナル会長

たゆむことなき弱者医療救済の道

3・20(金)記者会見/司会：富田一雄委員/通訳：大野理恵
 /出席：40人/動画

人道主義の博愛の精神に基づく「国境なき医師団」の活動は、国家の枠組みにとられない緊急医療を旨とする。人や物が国境を越えて自由に行き交う、グローバル化の時代にこそ初めてあり得た活動だろう。今や世界中の紛争地帯、貧困地帯で「国境なき医師団」の姿がある。小児科医であり2013年の就任以来重責をこなす、リユー会長の会見は時宜を得たものであり、その語り口は若さのなかにも精悍さを感じさせるものだった。



昨年、西アフリカで危機的に流行したエボラ出血熱では「国境なき医師団」の活躍が頻繁に伝えられたが、今回の会見では、そのエボラ出血熱はじめ、内戦のシリア、さらには紛争地域のウクライナ東部、アフガニスタンと広範にわたる医療救済活動が現在進行形で語られた。

エボラ出血熱の流行はまだ終息していないとし、あくまで患者ゼロ、新規感染ゼロを目指すとする。シリアでの医療活動は「イスラム国」の問題もあり、数カ所を除いて直接の医療援助ができにくい現状にも触れた。メディアとの関係は問われ、DNAに深いつながりがあるとし、声を上げて活動していく姿勢を語ったのが印象に残る。

東京新聞事業局長 鷺見 卓

鈴木 達治郎 すずき たつじろう
 バグウオッシュユ会議世界大会組織委員長

小沼 通二 こぬま みちじ
 神奈川歯科大学理事

大西 仁 おおにし ひとし
 東北大学名誉教授 (写真右から)

被爆70年の長崎で科学者は何を語る

3・23(月)記者会見/司会：服部尚委員/出席：37人/動画



核兵器と戦争の廃絶を目指して、世界の科学者たちが話し合う「第61回バグウオッシュユ会議世界大会」が、11月に長崎市で開かれる。組織委員会の3人が会見した。

会議の歴史は古い。東西冷戦のまったただ中、米ソの核実験が続いた1957年、カナダのパグウオッシュユ村に科学者が集まった。以来、先端技術がもたらす危険や、科学者の責任などを議論。国連や政府に働きかけてきた。95年にはノーベル平和賞も受賞した。

だが、核廃絶の道は依然険しい。3月にはロシアのプーチン大統領が、クリミア編入をめぐって、「核戦力を戦闘態勢におく準備があった」と発言、波紋を広げた。会議の存在すら知らない人も多い。被爆70年の節目。被爆地・長崎で、2000人の科学者たちは何を語るのだろうか。組織委員長の鈴木さんは「原爆の写真という点、空からきのこ雲を見ていくものが多い。きのこ雲の下で考えることが大事」。その視点は、原発事故などで失われた科学者の信頼を取り戻す一歩でもある。

読売新聞編集委員 知野 恵子



中尾 武彦 アジア開発銀行(ADB)総裁

対AIIIB「敵対ではなく補完」

3・25(水)記者会見/司会・安井孝之委員/出席:96人/動画



会見前の10日余り、中国が主導するアジアインフラ投資銀行(AIIIB)への参加を英仏などが表明し、どうする日本、どうなるADB、と話題を呼んだ。

質疑もそこに集中した。

中尾総裁は「AIIIBとの敵対は選択肢にならない。中国側もADBとは補完関係を求めている」と強調した。今後膨らむアジアの資金需要を、そもそもADBだけで賄うことはできない。またしばらくはADBに比べ規模が小さいとみられるAIIIBがADBに取って代わられるものでもない。そんな現実を考えれば、メディア報道では二項対立が強調されるが、「そんなことはない」と中尾総裁は言いたげだった。

ただ一方で「謙虚に相手国の立場を聞き、それを踏まえて支援してきたことがADBへの信頼を生んでいる」と中尾総裁はADBの歴史を振り返りながら、組織が信頼される必要性を付言した。

支援する側が自国のエネルギー確保のために資金提供するというような国益をちらつかせては関係国の信頼は得られないことも自明である。AIIIBは中国の国益を振りかざしてはいかんよ、という中尾総裁の助言だと受け止めた。

企画委員 朝日新聞編集委員 安井 孝之

板橋 拓己 成蹊大学准教授

現代ドイツを創った政治家を通して日本を見る

3・27(金)著者と語る「アデナウアー 現代ドイツを創った政治家」/司会・倉重篤郎委員/出席:41人/動画



西ドイツ初代首相を描いた近著『アデナウアー(中公新書)』を紹介し、戦後ドイツの成立について解説、日本の戦後70年を考えるうえでも、時宜になかった会見となった。

アデナウアー(1876〜1967、首相在任は49〜63)が目指した政策理念として▽欧州連合(EU)につながる西側結合▽自由主義体制の定着▽戦後補償―を挙げる。著者が日本人の視点として独自性を強調したのは、イスラエルとユダヤ人団体への補償を取り上げた点だ。

イスラエルは、ナチス時代の罪や過去を突き付けるナイーブな存在だった。西ドイツが主権を回復し、国際社会に復帰するためには「ナチスの過去」を清算する必要があった。当時、イスラエルにとって「反ドイツ」は国是。西独、イスラエル両国内から批判が出る中、アデナウアーがドイツ人の責任を認め、ユダヤ人への補償に踏み出そうとした点は評価されてもいい、と主張する。

「ドイツの政治家は過去について、どういった言動が許されないか、というコード(規定)を強固に持っている。国際社会を非常に意識している。学んでもいいのでは」と提言した。

東京新聞論説委員 熊倉 逸男

賛助会員の会(3・23 出席30人)

川戸恵子 TBSテレビ・シニアコメンテーター



「政治家にとって、選挙に勝つことがなにより重要」。長く選挙番組を取材・担当してきた経験をもとに、「選挙」を切り口にして日本政治の今昔を解説した。佐藤内閣の「黒い霧解散」や中曽根内閣の「死んだふり解散」、小泉内閣の「郵政解散」、

第1次安倍内閣での参院選などを例に、タイミングや世論の動向などが選挙結果を左右し、その後の政権基盤に大きな影響を与えてきたことを紹介した。昨年暮れの総選挙についても、取材に基づくウラ話を披露してくれた。(河野聡)

● ラウンジにコロンビア珈琲の香り

3月13日(金)に会見したコロンビアのペンソン国防相から同産産のコーヒー豆をお土産としていただきました。「エメラルドマウンテン」という高級豆で、コロンビア産出が有名なエメラルドとアンデス山脈にちなんで名付けられたそうです。ファンが多いのか、日本が一番の輸入国とか。

週明け16日(月)の午後、ラウンジにいらした会員など約30人に、その風味を楽しんでいただきました。違いが分かる男「よろしく塚田博康会員(元



東京新聞)は「香りがふくよかで、奥にやさしい酸味もありますね。コクがあつておいしい」とご満悦の様子でした(写真)。

31
記者ゼミ



著作物の報道利用 立場を変えた 視点も必要

さらに池村さん

「顔写真にもカメラマンの著作権がある」と池村さんは指摘した。多くの記者にとっては、驚愕の指摘だと思ふ。

事件報道などで、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）や卒業アルバムから、関係者の顔写真を転用することがある。誰が撮ってもほぼ同じになる顔写真には、著作権はなく、許諾不要と考えられていたはずだ。

しかし、池村さんはSNSと著作権法の解説の中で、卒業アルバムの写真もカメラマンが笑わせたりして工夫して撮影しており、著作物だと主張した。同法第41条は、「事件を構成する著作物を報道利用できる」としているが、構成するのは、写っている「事件の関係者」である。卒業アルバムは顔写真が載っているだけで、事件は構成しないと。つまり、利用にはカメラマンの許諾が必要とした。

は、他社のスクープ写真を無断利用する社はないだろうと問いかけた。そして「SNSの素人の写真なら無断利用できて、同業他社のプロのものではないのは、一貫性がない」と指摘した。

参加者からは、取材現場の実情と合わないなどの意見が次々と出た。池村さんの話は、専門家の間でも議論がある話題を取り上げたもので、著作権についてはいろいろな考えがあることを紹介した。

報道機関は、記事で写真を使ったり、歌詞を引用したり、著作物の利用者である。一方、自社のコンテンツの著作権を守る権利者でもある。どちらの視点から見ると、著作権の意味合いは変わる。そのことを考えさせられた。

報道利用について、必要なものを適切に利用していくことに何のためらうことはないが、常に「逆の立場ならどう思うか」と考えることが大切だと感じた。

読売新聞社長室知的財産部 神宮 聖

3・3(火)「ソーシャルメディア時代の報道と著作権問題」/司会：津山昭英特別企画委員/出席：25人+ネット視聴4人

32
記者ゼミ



ビッグデータ 信頼関係築き 報道に厚みを

識が高く、信頼できる

「データジャーナリズム」と「カタカナ語」で書くと、新しい取り組みのように聞こえるかもしれない。しかし、土台を支えているのは「データといえども、人と人の信頼関係が重要」と渡邊氏は説く。ジャーナリズムではない一研究者が「取材の基本」と同じことを訴えた点は、特筆すべきことだろう。

日本ジャーナリスト教育センター主催「ジャーナリズム・イノベーション・アワード」で、渡邊氏の「台風リアルタイム・ウォッチャー」は、既存メディアなどの出品を抑え、最優秀賞を受賞した。デジタルの衛星写真と、携帯電話の有料氣象サービス利用者が投稿した「位置情報付き台風リポート」を重ね合わせて表示させ、各地で「今、何が起きているか」をわかりやすく画面上で表現した。

同作で重要なのは投稿されるデータの質。「台風」の場合は、防災意識が高く、信頼できる会員発の情報を得られたことが鍵となった。衛星写真という「トップダウン」型データと会員リポートの「ボトムアップ」情報が補完し合い、PC画面上で視覚化できた。同様の取り組みとして、被爆者の体験談を地元高校生がまとめ、そのデータを当時の地図と重ねた「ヒロシマ・アーカイブ」などがある。

一般から提供された情報は、裏付けが必要だ。そのうえで、信頼関係を築き、良質なデータを得られるなら「込み入った事実を端的に伝え、詳しい情報への入り口となる」と渡邊氏は指摘した。取材の一助となり、報道にも厚みが出せるだろう。

約1年間の記者ゼミ「ネット時代のマスメディア」に出席し、デジタルの世界は「型がない」と再認識した。われわれには取材という強固な地盤がある。そのうえでアイデア勝負を演じられるこれからの時代は、刺激に満ちた舞台だと確信している。

報知新聞社長直属メディア統括室 田中 孝憲

3・10(火)「データを紡いで社会につなぐ」/司会：津山昭英特別企画委員/出席：16人+ネット視聴7人



表現の自由
主たる担い手としての
覚悟

だという。報道の「無謬性」にとられがちな記者の目を開くものではないか。

自分の記事が、紙だけでなくインターネットに載る。ネット事業者のサイトに使われたり、個人のサイトに引用されたりすることもある。

情報伝達が様変わりした時代に、マスメディアの役割をどう捉え直すか。新進気鋭の憲法学者と一緒に考える、得難い時間となった。

宍戸氏が提示したのは、「自分たちはこう考え、取材・報道していく」という姿勢をきちんと説明できる、主体的なメディア像だった。情報の送り手になる道が誰にも開かれた今、個人サイトでマスメディアの取材経過が暴露されたり、事件などの初期情報の誤りを指摘されたりするケースは少なくない。社会の信頼を得ていくには、例えば速報性と情報の確かさは一方を得ればもう一方が失われる関係にあることも含めた、報道のありようと意義に理解を求めていくことが不可欠

特に関心が集まったのが、インターネット上の「忘れられる権利」についてだ。検索サイトに自分の名前を入力すると犯罪との関連を示す結果が出るという男性の訴えを受け、東京地裁は昨年、検索結果の一部削除をサイト運営会社に命じた。

犯罪の報道は、デジタル空間に残ればいつか前科の報道になる。「例えば痴漢などの微罪に実名報道は必要か、考えるべき」という宍戸氏の問いかけは、事件報道のルールを根底から揺さぶる、重いものだ。

検索サイト側からすれば、問題になりそうな情報はあらかじめ排除する方がリスク管理の効率はいいはず。伝える意義、知る権利とプライバシーなどをいかに調整するか、ネット事業者任せにせず、ともに考えていくべきという問題提起と受け止めた。

朝日新聞論説委員 井田 香奈子
3・24(火)「ネット・法・倫理」/司会：津山昭英特別企画委員/出席：30人+ネット視聴者4人

第2期記者ゼミを終えて

インターネットの海で
確かな航路求めて

津山 昭英(特別企画委員)

目指すべき港を求めて「海図のない航海」に出よう、と第2期の記者ゼミは出航した。マスメディアがインターネットにどのように取り組んでいるか、どのような難所があるか。まずは、現状の認識からと、新聞、テレビ、雑誌、IT企業などの現場の人たちに登場していただいた。

次は、難所を切り切る航路を探ることである。テレビにとつてのネット利用の方法、データジャーナリズムで何ができるか、日本の前を走るアメリカの状況、ツイッターの可能性などだ。最後はネットが政治にどう関わっているか、著作権などの法的問題、法と倫理からみたマスメディアの立ち位置と課題である。

こう並べてみると、航海は順調で目指すべき港が見えるように思えるが、分かったのは難所の場所と多様さばかりである。ネット上の情報に目を凝らし、取材現場では映像も撮り、ツイッターで発信し、デジタ

ル編集もできる—そんな記者像を語ったのは、古田大輔さん(朝日新聞デジタル編集部)だった。最大の難所は、デジタル発信のマネタイズである。茂木崇さん(東京工芸大学専任講師)は、将来は演劇の世界のようになるかもしれないと言う。ジャーナリズムが、生活費を他の仕事で稼いででも、という人たちによって支えられる、という意味だ。ネットで過激な言説を発信する、いわゆるネトウヨは1500人から1700人ぐらいだが、政治の土台となる社会の空気をつくると警告したのは、五野井郁夫さん(高千穂大学准教授)である。弁護士の前田聡さんと首都大学東京准教授の渡邊英徳さん、最終回の宍戸常寿さんの講義内容は、別掲の報告を読んでもらいたい。

「環境にうまく適応し過ぎて滅んだ恐竜のようにならないように」(宍戸さん)、港と確かな航路を求めて、航海は続けなくてはならない。

会場にまで足を運ばないゼミ生向けにユーストリームで同時配信を行ったことを特記し、最後に、ゼミの講師を務めていただいた人たちに心から感謝したい。

*19ページに第2期講師リストを掲載

川崎中1殺害事件

北川 文(神奈川新聞社)

少年犯罪取材の難しさ 使命感と後悔のはざまで

「身長156センチ、肌つやもいい。少年の可能性は高い」

捜査関係者から得た情報を伝えた同僚記者は、私に「社会的影響がかなり大きな事件になるのではないか。その心づもりを」と助言した。

社会的影響……。その言葉の意味を、当時は正しく理解できていなかったように思う。

川崎市立中学1年の男子生徒が殺害された事件。2月20日に遺体が発見され、翌日に身元が判明して以降、メディアの取材はもとより、地域全体が過熱していった。

話聞こうと追う記者に 「めんどくせーな」

各社が多数の取材班を投入し、捜査本部が置かれた川崎署や被害者の学校周辺、遊び場だった公園などに記者を配置。捜査の進展や被害者の人柄、交友関係、学校での様子などを探るべく、連日深夜まで取材が続いた。

身元判明直後から、男子生徒が通

っていた中学校では登下校時に教職員と保護者が見守りに立ち、警察官も周辺を巡回するなど物々しい雰囲気にも包まれた。帰宅する生徒数人に対し保護者1人が500円ほど歩いて付き添った。先回りして生徒だけになったタイミングで声を掛け続けたが、その場を見た教員に注意を受けそうになったこともある。

遺体が見つかった多摩川河川敷には、男子生徒の友人や親戚らが花を供えに訪れた。手を合わせて帰ろうとする人を20〜30人の記者やカメラマンが囲み、男子生徒を知る人と分かれば1〜2時間は話を聞き続けた。

中学生とおぼしきある少女は、話を聞こうと追いかけてくるマスメディアに「お前らうぜえんだよ。めんどくせーな」と吐き捨て足早に去って行った。男子生徒を知る少年は「(男子生徒の)写真をマスコミに渡したら小遣いをくれた」と話した。友人が殺害されたという事実には、

子どもたちは戸惑い、胸を痛めていた。彼らなりに静かに死を悼みたかったはずだ。根掘り葉掘り話を聞くたびに少年少女たちの心と時間を踏みにじり、または、つけ上がらせてしまった申し訳なさを感じ、それでも事実を掘り起こさなければという気持ちの間で揺れ動いた。

ネット情報の拡散 メディアは批判できるのか

一方でインターネットの掲示板やツイッターでは、「犯人」として複数の少年の顔写真や名前が掲載された。報道が過熱するにつれ、「拡散希望」「見つけたらすぐ連絡ください」などのコメントとともに、さらに拡散した。

無関係な人も「犯人」や「関係者」



遺体が発見された多摩川の河川敷に花を供えようと訪れた人を多くの記者やカメラマンが取り囲んだ(神奈川新聞社提供)

として個人情報さらされた。「名誉棄損やプライバシー侵害に当たる可能性が高い」少年法の趣旨に反する行為」と指摘する弁護士もいる。

だがネットによる拡散行為を、メディア側は一方的に批判できる立場にあるのだろうか。殺人の非行内容で家裁送致されたリーダー格の18歳の少年の自宅近くには逮捕前から、ネットの情報と捜査関係者への取材を突き合わせて自宅を突き止め、神奈川新聞を含む各社が記者を張り付けて騒然とした。

近隣からの苦情もあり、少年の父親はマスメディア対応を弁護士に依頼。「取材」の名の下で、ネット情報に頼り、少年が容疑者だと近隣に知らしめることに加担してしまった。そう悔やまずにいられない。

13歳の少年がなぜ、このような死に方をしなければならなかったのか。取材に関わった記者の原動力はこの一点に尽きるはずだ。今後は司法の場で、少年3人の成育歴や家庭環境が調べられる。彼らの心の奥に何があったのか。学校や家庭、地域の態勢はどうあるべきか。今後も問いつけなければならない。

きたがわ・あや▼2008年入社 整理部 神奈川県警担当 報道部遊軍を経て14年から川崎総局

沖縄・与那国 住民投票

高良 新輝（八重山毎日新聞社）

陸自配備問題 過熱取材に振り回された島民

「陸上自衛隊の配備問題で島が二分された状態になっている与那国町です」——与那国島への「自衛隊基地建設」の民意を問う住民投票の期日前投票が行われた前日の2月21日、与那国町役場をバックにテレビ取材の記者が実況した。

与那国島への自衛隊配備は、2008年に町議会が人口減少の歯止めや地域の活性化などを目的に自衛隊誘致を決議。当時は地元紙や県紙で取り上げられたが、全国的にはあまり注目を浴びておらず、防衛省にも相手にされていなかった。

日本周辺海域で近隣諸国の活動が活発になってきたことを受け、10年末に防衛省が新たな「防衛計画の大綱」と中期防衛力整備計画を決定し、南西諸島への陸自部隊新設が計画に盛り込まれると、防衛省が与那国町と接触する機会が増えてきた。

第二次世界大戦で唯一の地上戦となり、多くの犠牲が出た沖縄では「戦争」に対するアレルギーは強く、

自衛隊や米軍に関する問題はとてもデリケートなものだが、与那国町が自衛隊誘致に名乗りを上げたことで、注目されることとなった。

中学生と永住外国人にも投票権

14年9月、町議選で与野党が同数となり、与党議員が議長になったことでバランスは野党有利に。野党議員が提案した住民投票条例案が可決され、投票権には中学生以上の未成年と永住外国人が盛り込まれた。

住民投票の実施が実現味を帯びてくると、全国のマスメディアや雑誌社からの問い合わせが当社にも相次ぎ、大々的に取り上げられるようになった。配備の賛否はもちろんだが、中学生以上と永住外国人に選挙権を与えたことも注視された。

東京のスタジオではコメンテーターや有識者などが町民不在で議論していた。そして、役場前に立つ記者が「国防に関する住民投票で中学生に選挙権を与えるのは今回が初めて

です」と実況し、拍車をかけた。役場には「なぜこんな住民投票をするんだ」「国の防衛を子どもに任せていいのか」と、クレームや問い合わせの電話が何十件もかかってきて業務に支障を与えていた。「町民1人1人の意識の問題なので、静かに見守ってもらいたい。マスコミは過剰に報道しすぎ」と話す職員もいた。

二分された島の表現に違和感

住民投票日が近づくと、島には多くの報道陣が訪れ、町内各地や基地建设予定地でカメラを構え、実況する様子や町民にインタビューする姿が見られた。なかには下校中の中学生の集団にインタビューしようとしたところ逃げられ、残った1人の生徒を車に乗せて自宅まで乗り込んだ取材グループもおり、中学校の教諭や警察が駆けつける騒ぎも起きた。

人口約1500人の島では、こういった話はすぐに広まる。過熱し、強引な取材に町民は「とても物々しい雰囲気」「地縁・血縁の関係があるので何も話したくないのにしつこい」「勝手に来て勝手に騒いでいる」とあきれられる。

島の人たちにとって、自衛隊配備の問題は確かに大きなものだが、自衛隊の話をしなければ、伝統行事も

一丸となって取り組み、一緒に酒の席に着くこともある。「島を二分した状態」という表現はマスメディアが過剰に作り上げた感もある。住民投票の結果、賛成632票、反対445票と賛成多数となったが、現在も海開きなどのイベントは地域全体で盛り上げている。負のイメージではなく、明るい話題を提供することで地域活性化につなげていきたい。

冷静な報道心がほしい

今回の住民投票で話題となったように、13年には自衛隊配備に伴う南牧場の借地で、外間守吉町長が「迷惑料10億円」を要求したことで注目を浴びた。

全国からのクレームやインターネット上では誹謗中傷の書き込みがあったが、与那国町を宣伝する効果になり、配備推進の与党にとっては自衛隊配備に向けて全国から支援や官僚との太いパイプをつなげるきっかけになったとも考えられる。

パフォーマンスを盛り上げる材料にされない冷静な報道を心がけたい。

たから・しんき▼2003年入社 編集局記者

八重山毎日新聞 1950年創刊。八重山列島を発行エリアとする朝刊紙。発行部数16000部。社員52人。沖縄県石垣市に本社を置く日本最南端の新聞社。

黒田博樹 カープ復帰

木村 雅俊(中国新聞社)

「信念の男」と一緒に 広島熱いシーズン開幕

プロ野球が開幕し、今年は広島東洋カープが注目されている。大リーグからの約20億円オフアーを一蹴し、5分の1の年俸で復帰した黒田博樹の存在が最大の要因だ。「お金が一番ではない」という生きざまは、野球ファン以外にも驚嘆させるなど、10年、20年後と語り継がれるだろう。その意志の強さ、ぶれなかった信念にあらためて感服している。

昨年オフは大リーグから松坂大輔がソフトバンク、中島裕之がオリックスに入団し、日本へ復帰した。いずれも複数球団による争奪戦の末にだった。一方の黒田は昨季終了後に「選択肢は引退、メジャー残留、日本復帰。確率はどれも同じ」と発言し、11月上旬にヤンキースをFAとなる。移籍先は日米全球団が可能だったが、国内では広島以外の球団が動くことはなかった。これが復帰劇の呼び水にもなっている。

数年前、国内のある球団がメジャーでFAとなっていた黒田の獲得を

目指し、接触を試みたことがある。条件面は当時、年俸3億円でオフアーしていた広島との2倍とも言われた。すると黒田は、その気もないのに会うのは失礼として接触自体を拒み、交渉の席にも着かなかった。

「再び」を信じて待ったファン

こうした出来事から、他球団は「日本に帰るならカープ」と捉え始め、全く手を挙げない状況になった。やはりばりのメジャーリーガーの争奪戦が広島対メジャーという構図になったのは、黒田自身が国内他球団をシャットアウトしたからにはほかならない。

「もし日本に帰るならカープ」。広島を退団し、大リーグ移籍を決めた2008年、黒田はそう言って海を渡った。以来、毎年オフになると、家族を米国に置いて単身で広島に戻り、約1カ月を過ごす。広島を拠点とする新聞社として、そのたびに去就に関連する記事やインタビューを

掲載した。彼の言葉が生き続けていると信じ、復帰を待っているファンが大勢いたからだ。

日本人投手では初の5年連続2桁勝利を飾り、年俸は広島全選手を合わせた額より多くなった。手の届かないほど大きくなったかつてのエースに対し、広島街には「もう帰ってこないのでは」という空気が確かにあった。しかし、国内他球団への復帰を疑うような声は一切ない。彼の言動に多くのファンが信頼を寄せていたからである。

FAで国内移籍がうわさされた06年、黒田は「広島市民球場のカープ



沖縄キャンプでファンに囲まれる黒田投手(中央)(2月11日/沖縄市陸上競技場/中国新聞社提供)

ファンの前で、カープを相手に投げた姿が想像できなかった」として広島に残留した。あの時、「お金では動かない男」と知ったファンは、今回の復帰劇で再び歓喜に震えた。多くの人々の心を揺さぶったと言われるが、広島ファンは同時に感謝の念を強く抱いている。

前代未聞の決断 半年後、何を思う

だから盛り上がる。年明けには8400席の年間指定席が完売。黒田グッズの発売日となった2月1日は昨年の2月分の売り上げを、たった1日で上回ったという。黒田が投げた3月22日のマツダスタジアムの観衆はオープン戦で過去最多となる3万1255人。広島地区のテレビ中継も高視聴率をマークするなど、今までになかったことが次から次へと起きていく。

予告先発の公式戦では各球場でも黒田を見ようとするファンが駆けつけるだろう。前例のない決断の結果が出るのは半年後。黒田はどのような回想するのか。丹念に追うシーズンとなる。

きむら・まさとし▼1991年入社
理部 運動部カープ担当などを経て 2
010年から運動デスク

被災地通信 石巻 地元紙は今、何を報じる

4年目の春
復興の階段はそれぞれ

平井 美智子 (石巻日日新聞社報道部長)

石巻日日新聞がエリアとする石巻地方(石巻市、東松島市、女川町)では「あの日」とは2011年3月11日を指す。4年が過ぎた今でも紙面に震災関連の記事が載らない日はないが、内容は時間とともに変わっている。集団移転地が徐々に出来上がってきた昨年以降は、住まいの再建に関する記事が多く登場する。

あの日が巡ってくる3月は毎年、人々の動向が慌ただしく、読者に伝えたい情報も多岐にわたるが、今年(3月1日)や仙台市が会場となった国連防災世界会議(3月14〜18日)といった大きなニュースが相次い

だ。「震災被災地を訪ねることが来日の目的だった」と語ったウイリアム王子は、津波に襲われた地域に真摯なまなざしを向け、家族を失った住民たちを慈しみの表情と言葉で包み込んだ。

一方、防災世界会議のパブリック・フォーラムには、石巻地方からも高校生など若い世代を含め多数の団体が参加し、災害時に命を守る行動や事前対応の重要性を説いた。震災体験者の使命として教訓を伝える人々の姿は、この地に芽生えているレジリエンス(強靱性)を感じさせる。

3月からは「復興の階段」のタイトルでインタビュを連載している。「復興のゴールを10段階目として現在何段階目か」と問いかけると、答えは人によって大きく異なる。10カ



第3回国連防災世界会議のパブリック・フォーラムで、命の尊さや絆を育む大切さを語る女川中学校の卒業生(3月14日/仙台市青葉区/石巻日日新聞社提供)

年の復興計画に基づいて事業を進めていることから石巻市、東松島市の市長は「3段階目」と慎重だが、産業経済界は6段階目と強気。特に基幹産業の水産業界は、新しい魚市場が夏には再開することもあり「10段階」とわず、12段階あるつもりで走っている」と勢いをみせる。

「8段階目」と言い切ったのは、この春高校を卒業した男性。仮設住宅で暮らしているが、これから社会人として地域の復興のために働くことに大きな意欲を示す。こうした若い力が育っていることを多くの読者に知ってほしいと思う。

首長で唯一、「4段階目」と答えたのは女川町長だ。同町中心部の造成地に新しい駅が移転し、JR石巻線が4年ぶりに全線開通したのを祝って3月21日に「まちびらき」を行ったことは明るい話題だった。他の被災地に先駆けて復興の形が目に見えてきた背景には、行政と住民、なかなか若い世代が主体となって議論を重ねてきたことがある。この取り組みのゴールは震災からの復興にとどまらず、その先の地域創生につながっていることを地域内外に伝えたい。

生活再建が進む陰で

自治体間、また同じ自治体の中で

も地区間で生じつつある復興の温度差は個人レベルになるとさらに大きい。今、課題として見え始めているのが生活再建に踏み出せた人たちと、そうでない人たちの差だ。あまり使いたくない表現だが、「復興格差」といえよう。

集団移転地の完成に伴い災害公営住宅などに引越す人たちが増えてきたが、その一方で仮設住宅から出られないでいる人たちも多い。大部分は高齢者世帯。新しい住まいについて考える気力、体力、経済力がなく、先の見通しを立てることができずにいる。そんな中で隣人たちが次々と転居していくため、入居者には空虚感、焦燥感が漂い始めている。震災が原因で取り残される人がいてはいけない。地域に根を張った新聞として、復興の格差が拡大しないよう読者に情報を提供していかねばならないと、4年目の春に強く思っている。

ひらい・みちこ▼石巻新聞(1998年廃刊)の記者を経て、2002年石巻日日新聞入社。2012年報道部長。14年から取締役報道部長。

石巻日日新聞 1912年創刊。6〜8ページ建て夕刊紙を約8千部発行。社員33人。2012年11月、新聞資料館石巻ニューゼを開館。震災直後に発行した壁新聞や石巻の足跡を見つめ直す資料が展示されている。

ペルー大使公邸
人質事件「面白いものを見せてあげよう」と
フジモリ大統領は言った

江口 義孝



えぐち・よしたか

1950年生まれ 74年NHK入局
福岡放送局 外信部 84年テヘ
ラン 85年リオデジャネイロ
90年バルセロナ 99年バンコク
各支局長を経て 2003年国際部
長 06年放送総局解説主幹
現在NHKグローバルメディア
常務取締役
ペルー日本大使公邸事件でNHK
会長賞受賞

1996年12月18日、私は、いつものように朝9時半の徹宵勤務者と日勤との引き継ぎ会議に出っていた。特段の申し送りもなく引き継ぎが終わったところで、不意にアルバイトの学生から声をかけられた。

「ペルーのリマから電話です」

私は、一瞬いぶかった。午前10時過ぎだった(現地17日午後8時過ぎ)。現地の取材助手からであった。

「日本大使公邸の近くで銃撃音がしているということですよ」

公邸は、首都リマでも有数の高級住宅地にあった。すぐ現場に行ってもらうことにした。20分ほどして電話があり、取材助手は興奮して早口でしゃべった。

「大変です！ 日本大使公邸の門の内と外で、激しい銃撃戦です」

私は、取材助手が話す内容をメモ

にまとめると、すぐに原稿に取り掛かった。10時45分。11時のニュースに間に合う。報道局内共聴マイクに向かつて怒鳴った。

「こちら国際部、ペルーの日本大使公邸で銃撃戦。直ちに一報出稿！」

報道局内のデスクの眼が一斉に国際部に注がれた。私の横にテレビニュース部のデスクが駆け寄ってきて、原稿を書いた先からひたたくていった。11時のニュースに間に合った。11時のニュースに間に合った。これが事件を伝える日本での第一報だった。

局内は騒然となり、局長をはじめ各部長が国際部のテーブルに集合してきた。正午ニュースのために、眼の前で起こっていることをスタジオと掛け合いで話すように取材助手に指示した。その時、取材助手が意外なことを口走った。

「今夜は、天皇誕生日を祝うパーティーが開かれています」

驚愕の情報だった。これで一気に日本を揺るがす大ニュースとなった。

公邸に侵入したのは、反政府武装勢力に違いなかった。邸内にいるのは、招待されたペルー政府要人、各国大使、日本企業代表者、日系人社会の人たち、それに青木盛久大使以下の大使館員であることは明らかだった。

正午ニュースは、現地からの電話リポートも入って圧勝だった。次の勝負は、夜7時のニュース。にわか結成の取材・中継チームが、次々とリマを目指して出発していった。

◆テロ指揮官と青木大使に初接触

若い記者に命じて大使公邸の電話を休むことなくダイヤルさせた。しばらくすると電話がつながって、受

話器の向こうで男の声がした。「指揮官のウエルタだ」とリーダーのセルパは、最初はそう名乗った。

「組織名は？」「トゥバク・アマラだ」「なぜ、日本大使公邸を襲った？」

「日本は、フジモリに多額の援助をして貧富の格差を広げているからだ」「目的は何だ？」「仲間の解放だ」これがセルパと私の最初で最後の会話だった。事件の筋が見えてきた。

2時間ほど間を置いて再度呼び出すと、今度はあまり流暢ではないスペイン語を話す別の男が出た。

「どなたですか？」「大使の青木だ」「どうしてスペイン語を話しているのですか？」「目の前にいる武装ゲリラが、スペイン語しか許可しない」大使の声は落ち着いていた。

この2人との会話は、内部の様子を初めて伝える声として直ちに放送

された後、全世界の主要な放送局に配信された。

127日間の占拠事件は、こうして幕を開けた。

◆テロ撲滅の徹底戦

私が初めてペルーを訪れたのは、86年8月だった。当時は爆弾テロや身代金目当ての誘拐事件が多く、送電線の破壊による停電もよくあった。

87年3月に訪れた時には、東京銀行のリマ支店長襲撃事件に遭遇した。当時の藪忠綱大使は、アメリカから特別に輸入した防弾車に乗って通勤していた。大使館の警備は嚴重を極めていた。トゥパク・アマルとセンデロ・ルミノソによるテロの全盛時代であった。

誘拐を恐れて藪大使は、夜間や休日の外出も制限される不自由な生活を送っていた。大使公邸に招かれて詳しい情勢説明を聞きながら食事をした後、マージャンに誘われた。邸内に響く洗牌の音が、当時の状況を一層際立たせているように思えてならなかった。

90年に登場したフジモリ大統領は、徹底した情報収集による反政府武装勢力の摘発と、農村部の貧困層への援助などを通じて、テロの撲滅に取り組み、大きな成果を挙げている。事

件は、2つの武装勢力の壊滅まであと一歩に迫っていた時に起こった。

◆公邸の完全なレプリカがあった

仲間の釈放を求めるセルパラの要求は結局入れられず、翌97年4月22日、トンネルを使った特別編成部隊の突入作戦で、ペルー人人質1人と軍人2人の犠牲者を出して事件は終わった。

事件後に私たちに残された課題は、関係者の証言を集めて事件を検証することであった。一切公開されなかった交渉内容やペルー政府が把握していた公邸内の情報、そして軍事作戦がどのように準備され、突入の最終決断はいつどのようにして下されたのかといったことであった。

私のペルー政府内の人脈を通じて、番組制作への協力を大統領に直接依頼することになり、8年ぶりにリマを訪れた。大統領との直接インタビューを含めて、撮影への可能な限りの協力を取り付けることができた。

事件の最中に作戦本部が置かれていたSIN(国家情報局)での折衝の後、深夜にもかかわらず大統領が、何か魂胆ありげに「面白いものを見せてあげよう」と言った。私を車の助手席に誘うと、自らハンドルを握

って暗黒の敷地内を走り始めた。数分後に大統領が車を止めて降り立ち、警備の兵士に何かを命じた。はじけるような音とともに何カ所からまばゆい明かりがともされた。その中心に照らされたのは、2階建ての大使公邸の完全なレプリカだった。

こっちに来いと手招きする大統領の後に続くと、トンネルの入り口が見え、中に入ると人が背を屈めて歩けるくらいの通路が掘られてあった。レプリカに通じる通路左手に掘られた広い待機室、突入を合図する電球、通風用の扇風機などが、訓練時と変わらずそのまま残されていた。

「撮影のために必要なら、当時の隊員を連れて来て突入作戦を再現しなさい」と言っていて微笑んだ。

この一言で、映像の核心部分が出来上がったと、私は確信した。NHK特集「突入」は、97年10月に放送された大きな反響を呼んだ。文化庁芸術祭のドキュメンタリー部門で優秀賞を受け、モンテカルロ国際ドキュメンタリーコンクールでも銀賞を受けた。

◆幻の映画化計画

98年に、市川崑監督の「ビルマの豎琴」を製作したプロデューサーから映画化の話が持ちかけられた。台本

は松山善三監督が書き、ペルーでロケをしたい、そのためにフジモリ大統領への協力依頼を仲介してほしいということだった。私は休暇を取り、プロデューサーとリマに向かった。

大統領府で映画製作協力の話に入ったのだが、ストーリーが交渉の保証人だったシプリアーニ大司教を軸にして描かれていることが、どうやら大統領の気に入らなかったようだった。製作に協力はするが、台本の手直しや配役にハリウッドの俳優を起用するようという注文も付いたと聞いた。結局、その後の何度かの協議の後、2000年の大統領の突然の辞任によって、映画化の話は立ち消えになってしまった。

フジモリ大統領は人権侵害に問われて禁固25年の有罪判決を受け、ルリガンチョ刑務所に囚われたままである。娘のケイコは、11年の大統領選挙に出馬して惜しくもウマラ候補に敗れたが、野党第一勢力の党首である。フジモリ一族は、ペルー政界に影響を残している。

事件から20年近くが経過した。国民一人あたりの総所得額は大きく上昇して、生活改善が図られたという。ペルー国独立以来の宿痾である農村部での貧困の現状をみるために、近い機会にかの地を訪れたいと思う。

私が会った
あの人

「神戸っ子」の土井たか子さん 病床からも憂えた憲法改正

小西 博美（神戸新聞社）

土井さんが最後の衆院選を終えた2005年、兵庫県西宮市の家を訪ねた。2部屋ほどの質素なアパート。「慣れてないから、おいしくないかもしれないわよ」と入れてくれたお茶は温かく、いい香りがした。飲みながら話したのはやはり憲法のこと。軍隊放棄を掲げるコスタリカの話だった。「小さな国なのにすごいよ。見習わないといけません」。一市民となつても、変わらぬ熱意を感じた。

生涯、頑固に平和と護憲を貫いた土井さん。原点は神戸での少女時代にある。第2次大戦中、父は軍医として召集。生家は焼夷弾の直撃を受けながら、家族は奇跡的に助かった。この時の体験が「二度と戦争をしてはだめ」という決意として心に刻まれた。

衆院議長だった土井さんと初めて会ったのは19年前の春。当時の

国会は住専問題で揺れていた。挨拶のために時間を取ってくれたのだが、国会の話に水を向けると、「挨拶だけじゃなかったの」と顔色が変わった。あわよくば土井さんの言葉の記事に、と考えていた私のもくろみは打ち砕かれた。思えば国会空転が続く中、議長として相当なプレッシャーだったのだろう。その後、半年も口を開いてくれず、苦しい思い出となった。

神戸っ子の土井さんは、若い頃はずっともおしゃれだったという。地元に戻ると、神戸・三宮と元町の洋品店や洋食屋に立ち寄った。何度か食事も一緒に食べたが、大柄な土井さんは見事な食べっぷり。そしてよく、食事量の違いから男女差があった生活保護費の話になり「私は男性より食べると言っ、男女同じにしたのよ」と豪快に笑った。

女性初の社会党委員長に、衆院議

長し。華やかさとほろ苦さが同居した政治家人生で、私が担当したのは「崖っぷち」の部分だった。議長を辞めて引退し研究者として生きる道もあったのに、あえて火中のクリを拾い、衰退に向かう社民党の党首を引き受けた。何という逃げ足の遅さ。それを真剣に支える人がいない不幸。かつては自信にあふれ、記者にも厳しかった土井さんが、次第に優しくなっていくのが寂しかった。

弱音はめつたに吐かない人だった。一度だけ「元首相の）村山さんは子や孫がいるからいいけれど、私の老後はどうなるのか。議員宿舎の壁を見つめると、不安になる」と漏らした。晩年は古里で姉や弟家族に囲まれ、穏やかに暮らせたのではないかと思う。



神戸市内で開いた自らの集いで、支持者らと語らう土井たか子さん（1991年ごろ、神戸新聞社提供）

「元氣だった私を覚えていて」と、亡くなるまでの数年は誰にも会わなかった。それでも12年、自民党が改憲案を発表した時には「何か発言した方がいいかしら」と病床から憂えた。昨夏の集団的自衛権行使容認の閣議決定や、その先に見える憲法改正の動きを最期まで案じていたに違いない。

最後に話をしたのは4年前の春。土井さんの好物、イカナゴのくぎ煮を届けようと電話をかけた。「私はね今、入院中なんですよ」。張りのある懐かしい声だった。

近親者で営まれた葬儀で、姉の和賀子さんは、妹への最後の贈り物を奮発した。祭壇には、おたかさんの大好きなカサブランカやランの花があふれんばかりに飾られた。長年秘書として連れ添った五島昌子さんは「こんなにきれいなら、もっと人を呼べばよかった」と悔しがった。

潔すぎる退場だった。

（こにし・ひろみ 東京支社編集委員）

次号は五味洋治さん（東京新聞）にバトンが渡ります。

マイBOOK マイPR

■「三面楚歌」によくやく気づいた韓国

鈴置 高史（日本経済新聞編集委員）

韓国の気分はもう、中立 対立を深める米中間で、韓国は中立を決め込んでいます。「ミサイル迎撃ミサイル」を韓国に配備しようとした米国には難色を示しています。中国が「核攻撃の対象にする」と脅したからです。一方、中国が計画中のアジアインフラ投資銀行に参加しかけ、怒った米国から「同盟に影響が出るぞ」と止められました。「対中接近は右傾化する日本のせい」との言い訳も、もう効きません。韓国の「離米従中」を描いた第5弾です。



日経BP社 1512円

■私は中国の指導者の通訳だった中日外交 最後の証言（周斌著／加藤千洋・鹿雪監訳）

加藤 千洋（朝日新聞出身）

日中交流舞台裏の貴重な証言 翻訳書である。著者は1972年日中国交正常化交渉で大平正芳・姫鵬飛外相会談を担当した中国外交部通訳

で、共同声明づくりに参加。歴史認識と台湾問題で行き詰まった交渉を

打開したのは、大平が提案した万里の長城へ行く車中会談だった。大平が日中戦争中に目撃した中国民衆の惨状を語る言葉が姫の心に届き、声明文言での合意の流れができた。通訳していて著者も胸を打たれたという。周恩来や田中角栄、大平らの素顔、そして立ち会った数々の民間交流の舞台裏に触れる歴史的な証言集だ。



岩波書店 4536円

■ソーシャル・イノベーションの力（小池洋次編著）

小池 洋次（日本経済新聞出身）

やる気になれば誰でもできる。ホームレス支援の仕組みを考えたり、がん患者の社会復帰をサポートする人、そうした人々のネットワークを作る人、アドバイスをする人…。社会を良くしたい人たちの挑戦の記録をまとめてみました。ソーシャル・イノベーションは「社会の問題を解決するための革新」といった意味ですが、固く考える必要はありません。自分ができる範囲で少しでも貢献することが大事です。「思いとアイデアの力」を少しでも伝えることができた

とすれば、これ以上の幸せはありません。



関西学院大学出版会 2592円

■福島原発事故と国民世論（柴田鉄治・友清裕著）

柴田 鉄治（朝日新聞出身）

原発にまつわる世論と政策 原子力ほど国民世論が揺れ動いたものはない。賛成一色から始まって1980年代には反対派が多数と逆転し、世論と政策の乖離が起こったが、どのメディアも無視した。そこまでの動きを追った『原発国民世論』（99年刊）の続編が本書である。福島事故が起こって反対派が急増、再び世論と政策の乖離が始まっているが、今はメディアの論調は二極分化している。福島事故後の外国の世論の変化もできるだけ調べた。



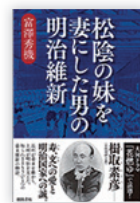
ERCH出版 1944円

■松陰の妹を妻にした男の明治維新

富澤 秀機（日本経済新聞客員）

群馬県が明治を支えた 動乱の幕末から明治末年まで生き抜き、地方創生の立場から近代日本の基盤づくりに力を尽くした男（楫取素彦 旧名・小田村伊之助）の物語である。

松陰の妹を妻にした楫取は、松陰や仲間の志士が次々に倒れた後、その遺志を継ぐ形で群馬県の初代県令に。最大の輸出品であった生糸産業を振興し、富国の基礎をつくった。富岡製糸場の世界遺産登録が話題となる中、楫取の足跡をたどってみると、あらためて「長州が幕末を動かす」、上州が明治を支えた」実像が見えてくる。



徳間書店 1944円

■知財立国が危ない（荒井寿光・馬場錬成著）

馬場 錬成（読売新聞出身）

知財ブームを振り返る 「知財立国」が叫ばれ、一種のブームのように言われてから10年たつた。あのころ、知財畑にいたプロ集団は「知財、知財とどこへ行っても叫んでいるが、これは知財バブルだ」とも言っていた。結局、言われたようにバブルだった。知財立国に変革ができないうちに、韓国、中国などほとんど変革して、部分的には日本を追い抜いていった。なぜそうなったのか。ブームをホンモノにできなかった日本の特殊事情を検証したものであり、解決策も提言した。



日本経済新聞出版社 1944円

見終わって、鉛を飲んだような重苦しい気分が襲われた。

上映の直前まで「皆殺しのバラッド」というタイトルに、大げさだなと、ちよつぱり抵抗をおぼえていた。だが中身は作りものではないドキュメンタリーだ。画面に展開する苛烈な現実を目の当たりにして、そんな抵抗感も吹き飛んでしまった。

皆殺しのバラッド **メキシコ麻薬戦争の光と闇** (3.5)



無法と暴力の根深さ

舞台はメキシコ第8の都市、シウダー・フアレス。リオグランデ川を挟んでアメリカのテキサス州と接する麻薬密輸の最前線で、ホンジュラスのサンペドロスラに次いで「世界で2番目に危険な町」だ。

監督と撮影に当たったのは著名な報道カメラマン、シャウル・シユワルツ。そのカメラの焦点は、片や麻

薬マフィアを賛美する歌手、片や命の危険にさらされながら密輸取り締まりに奔走する捜査官に絞られる。

苛烈な現実。ナルコ・コリードと呼ばれる麻薬マフィア賛美の歌に、地元のメキシコでも国境の向こう側のテキサス州やカリフォルニア州でも、詰めかけた聴衆が手を振り上げ、足を踏み鳴らして熱狂する。彼らには、麻薬マフィアたちは「社会の敵」どころか、ある種のヒーローなのだ。

一方、警察組織の多くの部分はマフィアと癒着し、ここに登場する捜査官は孤軍奮闘するしかない。

この地域を最大の基地としてアメリカに流れる麻薬の額は年間300億ドル、主要輸出産業の石油とほぼ同規模と推測されている。この町の麻薬がらみの殺人事件も、毎年3000件を超えるという。

9年前、メキシコ政府は麻薬カルテル殲滅を目指して「麻薬戦争」の火ぶたを切った。だがこのドキュメンタリーを見る限り出口は見えていない。むしろメキシコ社会、少なくともこの町にはびこる無法と暴力の根の深さに、絶望さえおぼえてしまう。

産経新聞出身 友田 錫

©2013 by Narco Culture, LLC
シアター・イメージフォーラム(東京・渋谷)ほか全国順次公開



時事通信出版局 3024円

日本の人口は2008年の1億2808万人をピークに急速な減少局面に入った。日本創成会議の推計は、2040年に全国自治体の半数が消滅の危機に直面すると警告する。人口の急減と東京一極集中は地域コミュニティをどのように変えてしまうのか。行政サービスや教育、福祉はどうなるのか。毎日の暮らしから国の安全保障に至るまで様々な論点を網羅し、「ふるさと生き残り」

女性の晩婚化、出産の高齢化に伴い、不妊治療、出生前診断など



講談社文庫 810円

生殖医療技術が進歩を続ける。妊娠の血液を調べるだけで、胎児の異常が分かる新生前診断の臨床研究も始まった。この先にどんな時代が待っているのか。

信濃毎日新聞が社会面に連載したルポルタージュ「温かな手で―出産を支える社会へ」(2014年11月6日)は信州を主な舞台に、高度化す

寄贈書

全論点 人口急減と自治体消滅(時事通信社編)

条件を探った。本書で記者は「消滅危機」の現場を歩き、町や村で何が起きているのか報告。増田寛也元総務相ら有識者37人、山田啓二京都市知事ら24自治体の首長が現状分析と対策の提言をした。この中で、社会学者の水無田氣流氏は女性の出産・育児・就労を支援する「子ども優先型」の家族制度への転換を訴え、片山善博元総務相は政府が進める「地方創生」の弱点も指摘している。

北原斗紀彦 (時事通信出版局代表取締役)

不妊治療と出生前診断 温かな手で(信濃毎日新聞取材班)

る医療技術を前にした夫婦らの葛藤を取材。米国の生殖医療ビジネスの実態も伝えながら、命の尊厳を問い、少子化の重荷を女性だけに背負わせる社会への道筋を探った。連載は、14年度新聞協会賞(編集部門)と、ファイザー医学記事賞優秀賞を受賞したキャンペーン報道の柱。「不妊治療と出生前診断 温かな手で」のタイトルで、78回のルポを全話収録した。小市 昭夫(信濃毎日新聞報道部長)

「写真回廊」の短文を担当します

今号から2年間、下記の4会員が「写真回廊」の短文を担当します。新聞・通信各社の写真部記者の「この一枚」に、自由な発想でエッセーを添えていただきます。



たけのぶみ え こ
○竹信三恵子

1976年朝日新聞入社。東京経済部、シンガポール支局、学芸部次長、編集委員（労働担当）、論説委員を務め、2011年退社。現在、和光大学教授。著書に『ピケティ入門「21世紀の資本」の読み方』など。



つちや ひでお
○土谷 英夫

1971年日本経済新聞入社。経済部、社会部を経て、編集委員、論説副主幹兼編集委員、コラムニストなど。朝刊1面コラム「春秋」「核心」を担当した。2013年退社。著書に『1971年市場化とネット化の紀元』など。



ごとう ふみお
○後藤 文生

1957年読売新聞入社。社会部長、編集局次長兼文化部長、常務取締役事業局長などを務め、1998年6月広島テレビ放送へ。同社取締役副社長、代表取締役社長、同会長を歴任する。現在、同社顧問。



まつうら しげなが
○松浦 茂長

1970年フジテレビ入社。産経新聞外信部、英BBC放送出向などを経て、フジテレビモスクワ特派員、解説委員（経済担当）、パリ支局長を務める。2005年退社後は、夏の5カ月をパリで過ごす。

第3期 ゼミ生募集中

「次世代ジャーナリズムの現場／ネット時代の原則とスキル」

「記者ゼミ」の新シリーズが5月から始まります。橋場義之特別

第2期記者ゼミ「ネット時代のマスメディア」編 全16回一覽

- ①小野高道・朝日新聞デジタル担当補佐、藤谷健・同ソーシャルメディア・エディター「朝日新聞社の取り組みと課題」(2014・5・21)②八浪英明・河北新報デジタル編集部長「河北新報社の取り組みと課題」(6・12)
- ③宇佐美理・日本テレビインタネット事業部担当部長「日本テレビの取り組みと課題」(6・24)④伊藤儀雄・ヤフーニュース編集部リーダー「ソーシャル時代のネットニュース課題と戦略」(7・11)⑤神保哲生・ビデオジャーナリスト／ビデオニュース・ドットコム代表「ネットとジャーナリズム、今と将来」(7・16)⑥田中大雅・東洋経済新報社デジタルメディア局長兼デジタル戦略部長「東洋経済オンラインの挑戦」(9・29)⑦鈴木祐司・次世代メディア研究所代表「デジタル化で情報が爆発する／既存メディアに残された道」(10・3)⑧八田真行・駿河台大学経済経営学部専任講師「データ・ジャーナ

企画委員(毎日新聞出身)が担当します。ゼミ生の対象は日本記者クラブ会員社の現役記者です。4月下旬、詳しい内容を会員社に送ります。
登録ご希望の方は seminar@jnp corp.へご連絡ください。

- リズムの現状と将来(10・17)⑨茂木崇・東京工芸大学専任講師「光が見えてきた米国のネットジャーナリズム事情」(11・4)⑩古田大輔・朝日新聞デジタル編集部記者／編集者「デジタルジャーナリズムの現場から」(11・20)⑪出雲秀一・Twitter Japan パートナーマネージャー「ツイッターの新たな可能性―総選挙、災害報道などでの活用について」(11・27)⑫我孫子和夫・元AP通信北東アジア総支配人「ソーシャルメディアと報道倫理」(12・17)⑬五野井郁夫・高千穂大学准教授「インタネットと政治 現状と展望」(2015・2・20)⑭池村聡・弁護士「ソーシャルメディア時代の報道と著作権問題」(3・3)⑮渡邊英徳・首都大学東京准教授「データを紡いで社会につなぐ」(3・10)⑯六戸常寿・東京大学大学院教授「ネット・法・倫理」(3・24)

ご希望の方には音声データを提供します。お問い合わせは事務局の青山(3503-2727)まで。

会 員 異 動 (2014年4月～2015年3月)

| 月 | 会員種別 | プレス会員 | | | | | | | 法人・個人賛助会員 | | 特別賛助会員(人) | 学生会員(人) | 全会員 | | | |
|--------|------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|----------|-----------|-----|-----------|---------|-------|------|----------|-----|
| | | 法人(社) | 基本(人) | 個人A(人) | 個人B(人) | 個人C(人) | 個人D(人) | 名誉・功労(人) | (社) | (人) | | | 合計(社) | (人) | 対前月増減(社) | (人) |
| 2014.4 | | 134 | 748 | 364 | 60 | 90 | 880 | 12 | 67 | 155 | 96 | 27 | 201 | 2432 | 1 | 1 |
| 5 | | 136 | 750 | 362 | 59 | 91 | 886 | 12 | 64 | 149 | 98 | 28 | 200 | 2435 | -1 | 3 |
| 6 | | 136 | 749 | 360 | 59 | 90 | 883 | 12 | 64 | 149 | 97 | 33 | 200 | 2432 | 0 | -3 |
| 7 | | 136 | 750 | 360 | 59 | 88 | 882 | 12 | 64 | 149 | 97 | 26 | 200 | 2423 | 0 | -9 |
| 8 | | 136 | 750 | 364 | 62 | 88 | 882 | 12 | 62 | 141 | 97 | 30 | 198 | 2426 | -2 | 3 |
| 9 | | 136 | 751 | 365 | 62 | 87 | 883 | 12 | 62 | 141 | 98 | 44 | 198 | 2443 | 0 | 17 |
| 10 | | 137 | 754 | 367 | 61 | 87 | 875 | 12 | 63 | 143 | 98 | 44 | 200 | 2441 | 2 | -2 |
| 11 | | 136 | 754 | 367 | 60 | 89 | 871 | 12 | 63 | 142 | 96 | 44 | 199 | 2435 | -1 | -6 |
| 12 | | 136 | 754 | 368 | 61 | 89 | 871 | 12 | 63 | 143 | 96 | 85 | 199 | 2479 | 0 | 44 |
| 2015.1 | | 136 | 754 | 365 | 60 | 89 | 869 | 12 | 62 | 141 | 96 | 84 | 198 | 2470 | -1 | -9 |
| 2 | | 136 | 754 | 364 | 58 | 90 | 869 | 12 | 62 | 141 | 96 | 84 | 198 | 2468 | 0 | -2 |
| 3 | | 136 | 755 | 362 | 58 | 89 | 864 | 12 | 62 | 140 | 96 | 86 | 198 | 2462 | 0 | -6 |

会議報告

●第85回総会 (3・26 宴会場)

日本記者クラブ第85回臨時社員総会は、3月26日午後3時からクラブ宴会場で行われた。書面議決社員を含め出席社員計124社の出席をもつて成立(定足数69社)、定款第25条の定めに従い、伊藤芳明理事長を議長に議事を進めた。

2015年度事業計画・同収支予算の理事案を議決した(詳細は2頁参照、予算書は21頁)。

また、昨年5月の総会以降届け出のあった役員の一部交代を承認した。

●第118回総務委員会 (3・5 小会議室)

2015年度事業計画・同収支予算の原案を作成したほか、日本記者クラブ賞・特別賞選考委員会および第22期役員選出委員会を総務委員会委員で構成することを承認し、理事会に上程した。

出席 西村委員長、小田、石川、会田、山田、西野、篠塚、川嶋、木村の各委員、伊藤理事長、飯塚、石田の両副理事長、中井専務理事。

●第564回理事会 (3・5 宴会場)

①2015年度事業計画案・同収支予算案を総務委員会案どおり承認し、臨時社員総会に上程することにした。収支予算案は正味財産増減予

算書で収益が3億9141万8000円、費用が3億9841万8000円で、経常外収益(経常安定化積立預金取崩)の700万円を加えて正味財産(資産と負債の差額)が増減なしとする予算である。過去の会員の写真(フィルム)をデジタル化する事業も組み込んだ。

②クラブ賞内規に従い、日本記者クラブ賞・特別賞選考委員会を総務委員会委員(西村陽一委員長)15人で構成することを議決した。

③第22期(15年度・16年度)の役員選出委員会を総務委員会委員で構成することを議決した。

④第85回臨時社員総会を3月26日に、第86回定時社員総会を5月27日に開催することを決定した。

⑤会員増加策の一環として、法人会員と法人賛助会員の入会金を13年度から免除してきた。入会促進の観点から、この入会金免除を15年度も行うことを申し合わせた。

出席 伊藤理事長、飯塚、石田の両副理事長、中井専務理事、西村、小田、石川、会田、谷、山田、佐藤(剛)、藤井、佐藤(純)、平田、鳴海、中野、西野、篠塚、加増、松田、川嶋、木村、梅田の各理事。沖永、小林の両監事。

●第450回企画委員会 (3・11 10階ホールB)

新委員の杉山祐之・読売新聞論説委員(旧・勝股秀通氏)があいさつ

した後、今後のゲスト候補などを協議した。記者ゼミ「ネット時代のマスメディア編」を担当した津山昭英特別企画委員がシリーズを振り返るとともに、退任のあいさつをした。

出席 会田委員長、坂東、杉山、脇水野、櫻山、宮田、杉田、川上、軽部、原田、宮内、島田、竹田、大信田、村田、津山の各委員。

●第361回会報委員会 (3・12 小会議室)

4月号の編集について協議し、4月号から「地方発」を「ワーキングプレス」の一部として名称を一本化することとした。

出席 吉野、高橋、五十嵐、神田、風間、佐塚、大寺、荒田、北村、長澤の各委員。

●第216回施設運営委員会 (3・12 10階シールドーム)

4月1日から次の2点を行うことを決定した。①「宴会場」の名称を「会見場」に変更する、②9階レストラン前と10階ホールのロビーにある喫煙コーナーを撤去する。

出席 粕谷委員長、岡崎、歌川、清水、吉澤、西野、五十畑の各委員。

●第451回会員資格委員会 (3・12 小会議室)

4月1日付入会を審議し、理事会に答申した。
出席 小田委員長、中島、船木、正籬、播磨、山本、國府の各委員。

2015年度 正味財産増減予算書(内訳表)

2015年4月1日から2016年3月31日まで

(単位:円)

| 科 目 | 公益目的事業会計 | | | | | 収益事業等 会計 | 法人会計 | 合計 |
|-----------------|----------------|---------------|----------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|
| | 公益事業1 記者会見等 | 公益事業2 クラブ賞 | 公益事業3 会報・HP | 共通 | 小計 | | | |
| I 一般正味財産増減の部 | | | | | | | | |
| 1. 経常増減の部 | | | | | | | | |
| (1) 経常収益 | | | | | | | | |
| 特定資産運用益 | | 278,000 | | 968,000 | 1,246,000 | | | 1,246,000 |
| 受取会費 | | | | 254,193,420 | 254,193,420 | | 71,695,580 | 325,889,000 |
| プレス会員会費収入 | | | | 214,597,500 | 214,597,500 | | 60,527,500 | 275,125,000 |
| 賛助会員会費収入 | | | | 39,595,920 | 39,595,920 | | 11,168,080 | 50,764,000 |
| 事業収益 | | | | | | 64,188,000 | | 64,188,000 |
| 貸室料収入 | | | | | | 40,413,000 | | 40,413,000 |
| 飲食売上割戻し | | | | | | 17,875,000 | | 17,875,000 |
| 施設機器賃借料 | | | | | | 5,900,000 | | 5,900,000 |
| 雑収 | | | | | | 89,000 | 6,000 | 95,000 |
| 受取利息 | | | | | | | 6,000 | 6,000 |
| その他の雑収入 | | | | | | 89,000 | | 89,000 |
| 経常収益計 | | 278,000 | | 255,161,420 | 255,439,420 | 64,277,000 | 71,701,580 | 391,418,000 |
| (2) 経常費用 | | | | | | | | |
| 事業費 | 159,664,200 | 17,470,820 | 49,125,780 | 56,234,750 | 282,495,550 | 50,409,800 | | 332,905,350 |
| 借室維持費 | 73,887,600 | | | 55,554,750 | 129,442,350 | 24,443,800 | | 153,886,150 |
| 借室料 | 38,444,000 | | | 24,027,500 | 62,471,500 | 19,222,000 | | 81,693,500 |
| 共益費 | 6,846,400 | | | 4,279,000 | 11,125,400 | 3,423,200 | | 14,548,600 |
| 空調・光熱費 | 3,597,200 | | | 2,248,250 | 5,845,450 | 1,798,600 | | 7,644,050 |
| ホール専用利用費 | 25,000,000 | | | 25,000,000 | 50,000,000 | | | 50,000,000 |
| 人件費 | 64,612,000 | 14,219,000 | 23,208,000 | | 102,039,000 | 24,286,000 | | 126,325,000 |
| 役員報酬 | 6,800,000 | 1,360,000 | 5,440,000 | | 13,600,000 | | | 13,600,000 |
| 給与 | 38,248,000 | 9,556,000 | 11,913,000 | | 59,717,000 | 17,050,000 | | 76,767,000 |
| 賞与・諸手当 | 19,243,000 | 3,220,000 | 5,736,000 | | 28,199,000 | 7,061,000 | | 35,260,000 |
| 厚生費 | 321,000 | 83,000 | 119,000 | | 523,000 | 175,000 | | 698,000 |
| 事業費 | 21,164,600 | 3,251,820 | 18,917,780 | | 43,334,200 | | | 43,334,200 |
| 会議費 | 1,979,640 | 76,140 | 482,220 | | 2,538,000 | | | 2,538,000 |
| 事業運営費 | 17,099,160 | 657,660 | 4,165,180 | | 21,922,000 | | | 21,922,000 |
| 会報発行・HP運営費 | | | 12,771,000 | | 12,771,000 | | | 12,771,000 |
| クラブ賞実施費 | | 2,150,000 | | | 2,150,000 | | | 2,150,000 |
| 運営雑費 | 304,200 | 11,700 | 74,100 | | 390,000 | | | 390,000 |
| 通信費 | 1,216,000 | 243,200 | 972,800 | | 2,432,000 | | | 2,432,000 |
| 印刷費 | 465,600 | 93,120 | 372,480 | | 931,200 | | | 931,200 |
| 交通費 | 100,000 | 20,000 | 80,000 | | 200,000 | | | 200,000 |
| 写真電子化費 | | | 7,000,000 | | 7,000,000 | | | 7,000,000 |
| 減価償却費 | | | | 680,000 | 680,000 | 1,680,000 | | 2,360,000 |
| 管理費 | | | | | | | 65,512,650 | 65,512,650 |
| 借室維持費 | | | | | | | 18,332,850 | 18,332,850 |
| 借室料 | | | | | | | 14,416,500 | 14,416,500 |
| 共益費 | | | | | | | 2,567,400 | 2,567,400 |
| 空調・光熱費 | | | | | | | 1,348,950 | 1,348,950 |
| 人件費 | | | | | | | 23,002,000 | 23,002,000 |
| 役員報酬 | | | | | | | 2,400,000 | 2,400,000 |
| 給与 | | | | | | | 14,159,000 | 14,159,000 |
| 賞与・諸手当 | | | | | | | 6,227,000 | 6,227,000 |
| 厚生費 | | | | | | | 216,000 | 216,000 |
| その他の管理費 | | | | | | | 22,537,800 | 22,537,800 |
| クラブ管理費 | | | | | | | 16,094,000 | 16,094,000 |
| 機器備品費 | | | | | | | 1,500,000 | 1,500,000 |
| 消耗品費 | | | | | | | 1,225,000 | 1,225,000 |
| 事務委託費 | | | | | | | 2,213,000 | 2,213,000 |
| 事務雑費 | | | | | | | 615,000 | 615,000 |
| 通信費 | | | | | | | 608,000 | 608,000 |
| 印刷費 | | | | | | | 232,800 | 232,800 |
| 交通費 | | | | | | | 50,000 | 50,000 |
| 減価償却費 | | | | | | | 1,640,000 | 1,640,000 |
| 経常費用計 | 159,664,200 | 17,470,820 | 49,125,780 | 56,234,750 | 282,495,550 | 50,409,800 | 65,512,650 | 398,418,000 |
| 評価損益等調整前当期経常増減額 | △159,664,200 | △17,192,820 | △49,125,780 | 198,926,670 | △27,056,130 | 13,867,200 | 6,188,930 | △7,000,000 |
| 当期経常増減額 | △159,664,200 | △17,192,820 | △49,125,780 | 198,926,670 | △27,056,130 | 13,867,200 | 6,188,930 | △7,000,000 |
| 2. 経常外増減の部 | | | | | | | | |
| (1) 経常外収益の部 | | | 7,000,000 | | 7,000,000 | | | 7,000,000 |
| 特定資産取崩収益 | | | | | | | | |
| 経営安定化資金積立預金取崩収益 | | | 7,000,000 | | 7,000,000 | | | 7,000,000 |
| (2) 特別会計活動支出 | | | | | | | | |
| 当期経常外増減額 | | | 7,000,000 | | 7,000,000 | | | 7,000,000 |
| 当期一般正味財産増減額 | △159,664,200 | △17,192,820 | △42,125,780 | 198,926,670 | △20,056,130 | 13,867,200 | 6,188,930 | 0 |

情報発信

■東京宝塚劇場公演「ルパン三世一王妃の首飾りを追え！」トークサロン

主催：東京メトロポリタンテレビジョン

元雪組トップスターの水夏希さん、元雪組トップ娘役の愛加あゆさんを招き、公演鑑賞者を対象にトークサロンを行った。(3.4 10階ホール)

■周斌さん出版記念会

日中外交交渉の通訳を半世紀にわたり務めた周斌さんの回顧録出版を祝う会が行われた。森田一元運輸相(大平正芳外相秘書官として日中国交正常化交渉に同行)、横路孝弘・前衆院議長、岡本厚・岩波書店社長らが挨拶。元中国大使や各社の中国特派員経験者、中国メディアの東京特派員、中国研究者など135人が参加した。(3.6 10階ホール) = 17頁に関連記事

■マリア・ゴロブニナさん追悼式

ロイター通信パキスタン・アフガニスタン両支局長のマリア・ゴロブニナさん(34)が2月23日に急逝し、追悼式が開かれた。マリアさんはイタル・タス通信東京支局長のワシーリー・ゴロブニン会員の長女。2001年に東京でロイター通信に入社し、13年からパキスタン・アフガニスタン両支局長を務めていた。追悼式にはゴロブニン会員も参加。知人、友人など約60人がマリアさんの早過ぎる死を悼んだ。(3.9 宴会場)

■地下鉄サリン事件から20年の集い

事件を知らない世代が増える中、写真や動画を紹介しながら関係者の体験談を聞く催しが開かれた。パネルディスカッション「オウム真理教による惨劇をくり返さないために」では、地下鉄サリン事件被害者の会代表の高橋シズエさん、弁護士の宇都宮健児さん、元警察官の稲富功さんらが討論した。(3.14 10階ホール)

■完全護憲の会記者会見

集団的自衛権行使に関する新たな安全保障法制の与党合意を受け、80代以上の戦争体験者21人で組織する「完全護憲の会」(共同代表：岡部太郎・元東京新聞政治部長)が、新法制に反対の記者会見を行った。(3.20 大会議室)

■土曜サロン

ジャーナリズムの様々な問題を議論する場として隔月1回開催している。第82回例会は川上泰徳・前朝日新聞中東アフリカ総局長、宮田律・現代イスラム研究センター理事長を講師に迎え「中東イスラム報道の課題」のテーマで語り合った。(3.28 大会議室)

■放送人政治懇話会

テレビ・ラジオ局の現役・OBらが政治家を招き、定期的に勉強会を行っている。3月は穀田恵二共産党国対委員長(3.4)、福山哲郎元内閣官房副長官(3.12)、船田元自民党憲法改正推進本部長(3.18)、上田勇公明党政調会長代理(3.25)をゲストに招いた。

新しいOB会員

■ ■ ■ 高田 和男 1970年日本テレビ入社。解説委員として医療問題を担当。2015年退社。



この1月までの45年間を報道一筋で歩んできました。3月からは個人会員として小生が主宰する医療問題を中心とした高田塾を引き続き執り行っています。

■ ■ ■ 高橋 弘司 1981年毎日新聞入社。カイロ支局長、ニューヨーク支局長、外信部デスクなどを務め、2013年退社。現在、横浜国立大学准教授(ジャーナリズム論)。



ジャーナリズムの授業の一環で、時折、学生を引率し、お邪魔することがあるかと思えます。

■ ■ ■ 渡辺 良行 1970年毎日新聞入社。ニューヨーク支局長、総合メディア局長、毎日広告社社長など。2009年退社後、帝京平成大学教授。



新聞社を離れてしばらくたちますが、世の中きな臭く、ジャーナリスト魂が再来しました。

HP更新情報

■ 会見詳録 会見の全文文字記録版

- 研究会「慰安婦問題を考える」
「議論の両極化に抗して」大沼保昭・明治大学特任教授、朴裕河・世宗大学教授(2015.2.23)
- 著者と語る『21世紀の資本』
「不平等の今後はわれわれの政策選択にかかっている」(日本語・英語)トマ・ピケティ・仏経済学者(2015.1.31)
- 研究会「2015年経済見通し」④
「デフレからの脱出 アベノミクスを信用するが確認も必要」ロバート・フェルドマン モルガン・スタンレー MUFYG証券チーフエコノミスト(2015.1.28)
- シリーズ企画「戦後70年 語る・問う」⑤
「テレビと戦後」山田太一・脚本家(2014.11.14)
- 音声アーカイブ(日付は会見日) 重要会見の音声録音
 - ネムツォフ ロシア第一副首相(1997.6.10)
 - シェワルナゼ ソ連外相(1988.12.21)
 - ワルトハイム 国連事務総長(1981.6.9)
 - ホーネッカー 東ドイツ国家評議会議長(1981.5.28)
 - 市川房枝 参議院議員(1979.8.27)
 - リー・クアンユー シンガポール首相(1973.5.11)
 - マクナマラ 世界銀行総裁(1971.11.6)

*「音声アーカイブ」へは、クラブウェブサイトからアクセスできます。トップページ中央にある「音声アーカイブ」をクリックすると一覧表が表示されます。このなかで各氏の顔写真の右にある「会見レポート」をクリックすると、発言の録音を聴くことができます。同ページで当時の会報や会見の全文文字起こしも読めます。

<http://www.jnpc.or.jp/>

レストラン *価格は全て税込です

予約電話 和食 3503-2723 洋食 3503-2731・2766

和食 伊勢海老懐石 (5/29まで)

先付:ひめ菜螺、蛸烏賊、胡麻豆腐ほか 刺身:伊勢海老姿造りほか 焼物:鮎魚女照り焼き 煮物:伊勢海老具足煮 揚物:白魚かき揚げ 食事:ご飯、伊勢海老頭味噌椀 水菓子:季節の果物
グラス冷酒付き (5,400円) (板長:大井由光)

洋食 牛タンシチューコース (5/2まで)

桜鯛のカルパッチョハーフ風味 プティサラダ添え、ハマグリチャウダースープとクラッカー、牛タンシチュー 春野菜とフィットチーネ添え、苺のミルフィーユとアイスクリーム、パン、コーヒープ付き (3,780円)。ランチ、ディナー (土曜日はランチのみ9階レストラン)ともにご利用いただけます。(シェフ:黒須修一)

福島のお酒 今月もお楽しみください

和食レストランで福島県の日本酒を提供しています。利き酒セット (1,296円)もどうぞ。

- ①花春 濃醇純米酒 (2,700円、花春酒造)
- ②天明 純米吟醸瓶囲い火入 (3,996円、曙酒造)
- ③雪小町 純米大吟醸美山錦造り (4,320円、渡辺酒造)

会員社ホール | イベント | 情報 |

浜離宮朝日ホール▶ロイヤル・コンサートへボウ管弦楽団員による室内楽企画「ムジカ・レアーレ」首席奏者を含む楽団員が、ウェーバーのクラリネット五重奏曲や、ドヴォルザークの弦楽五重奏曲第2番を届けます。

4/27(月)19時 (5,500円) ●問い合わせ: 03-3267-9990

日経ホール▶サラ・ルヴィオン フルート・リサイタル 神戸国際フルートコンクール第1位、フランクフルト歌劇場管首席奏者による傑作集。モーツァルト、ライネッケなどを演奏します。村田千佳のピアノとともにお楽しみください。

5/20(水)18時半 (3,800円) ●問い合わせ: 03-3943-7066

サントリーホール▶室内楽アカデミー ゲストコンサート 「チェンバー・ミュージック・ガーデン2015」のプログラム。アカデミーのゲスト指導者が、若き音楽家とともに音楽を作ります。全2公演、時間はお問い合わせください。

6/12(金)、14(日) (指定3,000円ほか) ●問い合わせ: 0570-55-0017

王子ホール▶アンジェラ・ヒューイット 第1夜 世界中で高い評価を得ているアンジェラ・ヒューイットによる2日公演の第1夜。スカラッティやグラナドスなど、リズムと色彩の豊かなスペイン作品を演奏します。

4/27(月)19時 (7,000円) ●問い合わせ: 03-3567-9990

クラブの電話 ダイヤルイン

- 和食レストラン (9階) ☎3503-2723
- 洋食レストラン (10階) ☎3503-2766
- 貸室予約、宴会打ち合わせ ☎3503-2724
- 受付 ☎3503-2721
- 会員事務 ☎3503-2727
- 経 理 ☎3503-2728
- クラブ行事への申し込み ☎3503-2722
- 会見申し込みアドレス kaiken@jnpc.or.jp

会員現況

- 法人会員: 136社 ●基本会員: 751人 ●個人会員: 1,367人
- 法人・個人賛助会員: 62社・140人 ●特別賛助会員: 95人
- 名誉・功労会員: 12人 ●学生会員: 106人
- 計: 198社・2,471人

事務局の新しいスタッフ =自己紹介=

佐藤聖子さとうせいこです



この春から事務局で働かせていただくことになりました。

出身は“じえじえじえ”でおなじみの?岩手県です。ちなみに“じえじえじえ”は一部沿岸の方言ですが、私がいた内陸では“じゃじゃじゃ”と言います。「じゃじゃじゃTV」なるテレビ番組もありますよ。生まれも育ちも岩手、東京には数年前に来たばかりですので、時折なまりが出るかもしれません。

経理・総務を担当します。会員の皆さまに直接お会いする機会は少ないかもしれませんが、事務局職員としてこれからお世話になります。どうぞよろしくお願いたします。

「シンガポール建国の父」リー・クアンユー元首相

会見記録があります

3月23日に91歳で死去したシンガポールのリー・クアンユー元首相は1973年5月に日本記者クラブで会見しています。この時のリー氏の肉声を「音声アーカイブ」で聞くことができます。また、発言記録が掲載された当時の会報もpdf版で読むことができます。日本記者クラブ・ウェブサイトの「音声アーカイブ」へアクセスを。

会報 連載ページの名称を変更しました

地方の話題を地元取材網をもつ新聞社・テレビ局にレポートしていただいている「地方発」ページの名称を、今月号から「ワーキングプレス」に統一しました。名称が変わっても、各地の声を掲載していきますので、今後もお愛読ください。

Gallery 9th floor 「2014年報道写真展」開催中

2014年東京写真記者協会賞、部門賞、奨励賞を受賞した作品を、4月24日までラウンジで展示します。グランプリを受賞した「火山灰の中に生存者」(産経新聞・大山文兄記者撮影)のほか各賞を受賞した力作をご覧ください。

<法人会員代表変更>

日本経済新聞社 岡田直敏代表取締役社長 (旧・喜多恒雄代表取締役会長)

<訃報>

坂本重太郎会員 (特別賛助会員・元日本外交協会理事長、81歳)が3月2日、野美山薫会員 (産経新聞出身、84歳)が同21日、林卓男会員 (毎日新聞出身、91歳)が同26日死去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

会報委員会

- 委員長=石川 一郎
- 委員=荒田 茂夫 五十嵐 裕 大寺 廣幸
- 風間 晋 神田 由紀 北村 節子
- 佐塚 正樹 高橋 茂 長澤 孝昭
- 吉野 理佳

(事務局:長谷川和子 村田 茜)

☎03-3503-2752 FAX 03-3503-7271

撮影：^{かたぬま} 渦沼 ^{よしき} 義樹 (東京新聞写真部)



解体工事でスタンドなどの取り壊しが始まった国立競技場＝3月5日、東京都新宿区で 東京新聞ヘリから

スタジアムの記憶

国立バルドール博物館を訪ねたのは3年前の秋、古
代ローマ時代のモザイクが質、量ともに素晴らしか
った。惨劇の館になろうとは。

チュニジアはカルタゴの故地。死闘の末に乗り込
んだローマ人は、草木も生えぬよう塩をまいたと伝
えられる。じきに実利に目覚めたのだろう。一帯を
「ローマの穀倉」に仕立てた。モザイク・コレクシ
ョンは当時の繁栄の証しだ。

地中海世界に点在するローマ遺跡の文明度には感
心する。キプロス島で見た小遺跡にも、ちゃんと公
共浴場や野外劇場が備わっていた。

優勢な異文明に出会った社会は、選択を迫られる。
英国の歴史家アーノルド・トインビーは、その相反
する反応を「ヘロデ主義」と「ゼロト主義」と名づけ
た。二千年ほど前、ユダヤのヘロデ大王は好んでロ
ーマ風の建築を造り、片やユダヤ教過激派のゼロタ
イ(熱心党)はローマに徹底抗戦し、砦に立てこも
り玉砕した。イスラム過激派は、さしずめグローバ
ル化の時代のゼロト主義者か。

アジア初の東京五輪で、メインスタジアムの大役
を果たした国立競技場。地方の高校生だった私は、
もっぱらテレビで見えていたが、閉会式の記憶が鮮烈
だ。選手団入場となって、国、民族、宗教の違う顔
、顔が入り交じり和気あいあい、トラックになだ
れ込んできた。整列して整然と、のはずだった。演
出ではなくハプニング。

以来、閉会式は東京方式が定着した。半世紀が過
ぎて、世界の現実はそうなっていない。

(土谷 英夫)